

ダンテ『神曲』における条件法の形態について

Sulle desinenze del condizionale nella Divina Commedia di Dante

古浦敏生

Toshio KOURA

§ 1 はじめに

現代イタリア語の条件法の形態は、代表的な動詞CANTARE「歌う」で示すと、CANT-erèi, -erèsti, -erèbbe, -erèmmo, -erèste, -erèbberoとなる。これらは、ラテン語の「不定詞+ HABEOの完了形」に由来していると言われている。以下、この語尾変化を便宜上 -èi型と呼ぶことにしよう。しかし、Dante Alighieri(1265-1321)の時代のイタリア語では、この条件法の形態(-èi型)は未だ安定したものではなかった。即ち、ラテン語の「不定詞+ HABEOの未完了過去」に由来する -ia型語尾や僅かではあるが「ラテン語の過去完了」に由来する -ra型語尾も存在し、三つの型の語尾が競合していたのである。Rohlf, G. は Grammatica storica della lingua italiana e dei suoi dialetti 『イタリア語・イタリア諸方言歴史文法』1967, vol. II, p. 340 において、“nella 《 Divina Commedia 》 però le forme in -ei sono più numerose di quelle in -ia. 「しかし、『神曲』では-eiに終る語形の方が -iaに終るそれよりも数が多い(下線筆者)” ということを指摘している。つまり、『神曲』は、条件法の語尾に関して言えば、現代語的色彩が濃いということになる。

ここで筆者は、Rohlf, G. のこの「数が多い」というだけの報告に満足しないで、「-èi型語尾は -ia型語尾と比べてどの程度多いのか？」また「個々の動詞によって、それが取り得る語尾の型は異なるのか？否か？」さらに「二つ以上の語尾の型を共有している動詞はないのか？」といった視点からのアプローチを試み、『神曲』における条件法の語尾の分布・勢力関係を明らかにしてみようと思う。

§ 2 イタリア語の条件法に関する先行研究

本題に入る前に、条件法に関する先行研究について少し触れておきたい。

まず、長神悟氏の論文「条件法をめぐって」(『イタリア学会誌』第30号、1981)であるが、これは13世紀のイタリア語方言テキスト(主として、シチリア派・トスカーナ派の詩人達のもの)において、上述の -èi型語尾・-ia型語尾・-ra型語尾の出現頻度とその意味・機能を調査したものである。個々の作家ごとの用法の差異が細かく記述されている。しかし、これらの資料はダンテ以前のものであるから、本稿で筆者が扱う『神曲』については言及されていない。

次に、町田健氏に「イタリア語の過去未来について」(『イタリア学会誌』第32号1983)

という論文がある。ロマンス諸語の中でイタリア語だけが過去未来を表わすのに条件法過去(即ち、助動詞の条件法現在+過去分詞という複合形)を用いているのであるが、町田氏はこのことに関する理由付けを、フランス語の条件法とイタリア語のそれとを比較することによって導き出そうとしている。このことは本稿とは直接関係はないが、イタリア語の条件法を論ずる際には避けて通れない問題であって、海外の多くの学者もこのテーマに取り組んで来ている。過去未来の用例を大量に収集することの難しさがこの問題解決のネックになっているものと筆者は考える。

§ 3 『神曲』における条件法の用例

『神曲』は、地獄編(34歌、4720行)・浄罪編(33歌、4755行)・天堂編(33歌、4758行)の3部からなる韻文作品である。そこに条件法として現れた三つの型の語尾をもつ動詞の形態すべてをその出自箇所とともに抜き出し、アルファベット順に並べたのが次のリストである。Inf.は地獄編を、Purg.は浄罪編を、Par.は天堂編を、ローマ数字は歌の番号を、アラビア数字は行数をそれぞれ示している。テキストとして、Enciclopedia Dantesca『ダンテ百科事典』のAppendice, 1978を使用した。下線を付した用例は、脚韻部に現れたものである。用例末の[]内には、不定詞形と人称・数を示しておいた。例えば、ardirèiは、天堂編第31歌137行目脚韻部の用例であって、不定詞形はardire。その1人称単数の形である。

(1)-èi型語尾のもの

ardirèi(Par. XXXI, 137)[ardire, 1人称単数]

assentirèi(Purg. XXI, 101)[assentire, 1人称単数]

attendere' (Par. IX, 80)[attendere, 1人称単数]

averèbbe(Inf. XIII, 49)(Purg. XXX, 117)[avere, 3人称単数]

avrèbbe(Inf. XXXI, 13)(Purg. X, 33)(Par. VIII, 71; XXII, 10; XXV, 102; XXVIII, 48)[avere, 3人称単数]

avrèbber(Inf. III, 42; XIII, 150; XXXI, 121)[avere, 3人称複数]

avrèi(Inf. XV, 14 & 60; XXVI, 123; XXVIII, 113; XXXI, 141)(Purg. XIX, 18; XXIII, 43; XXIX, 29)[avere, 1人称単数]

avrèsti(Inf. XXIX, 15)(Purg. XIV, 84)(Par. V, 110; XXII, 109)[avere, 2人称単数]

biasmerèbbe(Par. XXIII, 66)[biasmare, 3人称単数]

cangerèbbe(Par. II, 78)[cangiare, 3人称単数]

canterè' (Purg. XXXIII, 137)[cantare, 1人称単数]

canterèbbe(Par. XI, 96)[cantare, 3人称単数]

comincerèbbe(Par. XIII, 90)[cominciare, 3 人称複数]
concederèbbe(Par. XXIX, 44)[concedere, 3 人称单数]
conoscerèbbe(Par. XXI, 22)[conoscere, 3 人称单数]
conoscerèsti(Purg. XXXIII, 72)[conoscere, 2 人称单数]
converrèbbe(Inf. XXXII, 2)[convenire, 3 人称单数]
correrèbbe(Par. XXIX, 123)[correre, 3 人称单数]
crederèbbe(Purg. XXIII, 34)(Par. XX, 67)[credere, 3 人称单数]
darèbbe(Inf. XII, 9)[dare, 3 人称单数]
darèi(Inf. XXX, 78)[dare, 1 人称单数]
dirèbbe(Par. XI, 53)[dire, 3 人称单数]
dirèi(Inf. XV, 115; XXII, 92)(Par. X, 44)[dire, 1 人称单数]
disegnerèi(Purg. XXXII, 68)[disegnare, 1 人称单数]
diverrèbbe(Par. XXVII, 14)[divenire, 3 人称单数]
dovrè' (Inf. VII, 50)[dovere, 1 人称单数]
dovrèbb' (Inf. XIII, 38)[dovere, 3 人称单数]
dovrèbbe(Inf. XXVII, 80)(Par. XII, 109)[dovere, 3 人称单数]
dovrèsti(Purg. VI, 91 & 99)[dovere, 2 人称单数]
farèbbe(Purg. XXIV, 9)(Par. VIII, 134)[fare, 3 人称单数]
farèsti(Par. XXI, 5)[fare, 2 人称单数]
guarderè' (Purg. XI, 56)[guardare, 1 人称单数]
lascierèbbe(Purg. IV, 128)[lasciare, 3 人称单数]
leggerèbbe(Par. XII, 123)[leggere, 3 人称单数]
loderèbbe(Par. VI, 142)[lodare, 3 人称单数]
misurrèbbe(Purg. X, 24)[misurare, 3 人称单数]
parlerèi(Inf. V, 74)[parlare, 1 人称单数]
parrèbbe(Purg. XXV, 27; XXVIII, 115)(Par. XXIII, 99; XXVIII, 20)[parere, 3 人称单数]
parrèbber(Par. XXVII, 94)[parere, 3 人称複数]
poterèbbe(Inf. VII, 66)[potere, 3 人称单数]
potrèbbe(Inf. XIV, 60)(Purg. XXVII, 27)(Par. XXI, 141)[potere, 3 人称单数]
potrèbbesi(Inf. X, 8)(Purg. XXV, 120)[potersi, 3 人称单数]
potrèi(Inf. XIII, 84)[potere, 1 人称单数]
pregherèmmo(Inf. V, 92)[pregare, 1 人称複数]
premerèi(Inf. XXXII, 4)[premere, 1 人称单数]
prodocerèbbe(Par. VIII, 107)[produrre, 3 人称单数]

rimarréste(Par. II, 6)[rimanere, 2 人称複数]

saprèi(Inf. XXIX, 113)(Purg. IV, 85; XXI, 75; XXVI, 90)[sapere, 1 人称单数]

sarè' (Purg. III, 5; XI, 85)[essere, 1 人称单数]

sarèbbe(Inf. XII, 3; XIV, 66; XXVII, 84; XXVIII, 20; XXXIV, 24)(Purg. III, 41; VI, 32; XIII, 125; XV, 54; XXX, 142)(Par. I, 139; II, 68; IV, 129; VIII, 51; VIII, 115; IX, 55; X, 17 & 20; XVI, 62; XVIII, 33; XIX, 84; XXI, 12; XXII, 14; XXVIII, 33; XXX, 18 & 105)
[essere, 3 人称单数]

sarèbber(Purg. XXIX, 96)(Par. XVI, 142)[essere, 3 人称複数]

sarèbbero(Inf. XXVI, 74)(Par. VIII, 108; XXII, 33)[essere, 3 人称複数]

sarèi(Inf. XVI, 47 & 49; XXVI, 45; XXX, 84)(Purg. V, 81; XI, 89; XXVII, 50)(Par. XXXIII, 77)[essere, 1 人称单数]

sarèste(Inf. XV, 80)[essere, 2 人称複数]

sarèsti(Par. IV, 93)[essere, 2 人称单数]

sentirèi(Purg. XXII, 42)[sentire, 1 人称单数]

starèbbe(Par. IV, 4 & 6)[stare, 3 人称单数]

temerèi(Inf. XXII, 69)[temere, 1 人称单数]

trarrèi(Inf. XXIII, 26)[trarre, 1 人称单数]

uscirèsti(Par. IV, 93)[uscire, 2 人称单数]

userèi(Inf. XIX, 103)[usare, 1 人称单数]

varcherèsti(Purg. VII, 54)[varcare, 2 人称单数]

vederèbbe(Par. XXIX, 119)[vedere, 3 人称单数]

vedrèsti(Purg. IV, 64)(Par. I, 90)[vedere, 2 人称单数]

verrèbber(Purg. XIV, 96)[venire, 3 人称複数]

vorrèbbe(Inf. XX, 120; XXVIII, 87)[volere, 3 人称单数]

vorrèbber(Inf. VI, 33)[volere, 3 人称複数]

vorrèi(Inf. XXXI, 97)[volere, 1 人称单数]

vorrèsti(Inf. XXX, 129)[volere, 2 人称单数]

(2)-ia型語尾のもの

avria(Inf. XVI, 48 & 105; XXXII, 30)(Purg. III, 6; VIII, 81; XXIX, 149; XXXIII, 138)
(Par. IV, 85 & 90; VIII, 83 & 144; XXIV, 81; XXVIII, 26)[avere, 3 人称单数]

avrian(Purg. XXIII, 108)[avere, 3 人称複数]

avrien(Inf. XIX, 27; XXXI, 64)[avere, 3 人称複数]

converria(Purg. I, 97)[convenire, 3 人称单数]

diria(Purg. XII, 111)[dire, 3 人称单数]

dovria(Inf. XVI, 42)(Purg. XIV, 144; XXIII, 72)(Par. I, 32; II, 40)[dovere, 3人称单数]
dovrien(Inf. VII, 92)(Par. II, 55; VII, 129)[dovere, 3人称複数]
faria(Par. VII, 18)[fare, 3人称单数]
farieno(Purg. XII, 66)[fare, 3人称複数]
fuggiria(Par. VIII, 78)[fuggire, 3人称单数]
giugneriesi(Par. XXIX, 49)[giugnersi=giungersi, 3人称单数]
morria(Par. IV, 2)[morire, 3人称单数]
parria(Par. IX, 36)[parere, 3人称单数]
parrieno(Purg. XXVIII, 29)[parere, 3人称複数]
poria(Inf. XX, 69; XXVIII, 1)(Purg. VII, 58; XVII, 63)(Par. I, 71; IV, 66 & 95)[potere, 3人称单数]
saria(Inf. XV, 105; XVI, 88; XXVI, 10; XXVIII, 60)(Purg. I, 67; VII, 77; X, 40; XX, 47)
(Par. XIV, 33; XV, 127 & 129; XVI, 134; XVII, 25)[essere, 3人称单数]
sarian(Purg. XV, 128)[essere, 3人称複数]
sarien(Inf. XX, 102)(Purg. III, 48)[essere, 3人称複数]
sarieno(Purg. III, 127)(Par. XVI, 65)[essere, 3人称複数]
sariesi(Par. XVI, 64)[essersi, 3人称单数]
sarrria(Purg. VII, 51)[salire, 3人称单数]
seguiteria(Par. VI, 63)[seguire, 3人称单数]
seguiterieno(Par. II, 72)[seguire, 3人称複数]
staria(Inf. XXVII, 63)[stare, 3人称单数]
torrien(Inf. XIII, 21)[togliere, 3人称複数]
trarrria(Purg. III, 69)[trarre, 3人称单数]
troverria(Par. XII, 122)[trovare, 3人称单数]
verria(Inf. XXVIII, 4)(Par. XXIII, 59)[venire, 3人称单数]
vorria(Par. XXIII, 15)[volere, 3人称单数]

(3)-ra型語尾のもの

fōra(Inf. XXIX, 46; XXXII, 90)(Purg. VI, 90; IX, 116; X, 6; XVI, 70 & 71; XXV, 24; XXVII
141; XXIX, 123; XXXI, 38; XXXII, 41)(Par. II, 75 & 79; X, 89; XVI, 52; XXVII, 85)
[essere, 3人称单数]
fōra(Purg. XXVI, 25)[essere, 1人称单数]
fōran(Purg. XXIX, 60)(Par. III, 74)[essere, 3人称複数]
satisfara(Par. XXI, 93)[satisfare, 3人称单数]

§ 4 用例の分析

第 2 表

第 1 表

用例数	-èi型	-ia型	-ra型
全体数	141	69	20
異なり語数	64	28	4

人称・数	-èi型	-ia型	-ra型
1人称・単数	20	0	1
2人称・単数	9	0	0
3人称・単数	26	19	2
1人称・複数	1	0	0
2人称・複数	2	0	0
3人称・複数	6	9	1
計	64	28	4

(1) 用例総数について

用例が出揃ったところで、まず用例数全体を示したのが第 1 表上段である。これによれば -èi 型 141 例、-ia 型 69 例、-ra 型 20 例となっている。従って、-èi 型は -ia 型の約 2 倍、-ra 型は -ia 型の約 3 分の 1 ということになる。

(2) 人称と数について

次に、第 1 表下段の、「異なり語数」として計算したそれぞれの動詞に関して、その人称と数の使用頻度を示したのが第 2 表である。第 2 表によれば、例えば -èi 型語尾の動詞 64 種のうち、1 人称単数のものが 20 例、2 人称単数のものが 9 例存在した、などのことが分かる。-èi 型はどの人称・数にも満遍なく用いられているのに対して、-ia 型は 3 人称に限定されている点が注目される。-ra 型は用例数が少ないので断言しにくいですが、1 人称単数の 1 例が脚韻部に現われたものであることを考慮すれば、これまた 3 人称に限定されていると考えても差し支えないのではなからうか。

(3) 個々の動詞について

次に、個々の動詞によって、それが取り得る語尾の型が異なるのではあるまいかとの予想のもとに作成したのが次ページの第 3 表である。なお、◎印を付した動詞は弱変化のものである。合計欄の下段の()内の数値は、弱変化動詞のみを集計したものである。

第 3 表によれば、例えば *ardire* 「思い切って～する」は -èi 型語尾だけで、*dire* 「言う」は -èi 型語尾と -ia 型語尾の両方で現われている、などのことが分かる。「-ia 型語尾を有する動詞は、必ず -èi 型語尾も有している」といった語尾の一方的な優劣はここでは認められない。*satisfare* 「満足させる」のように -ra 型語尾のみを有している動詞も存在しているのである。

全体的に見た数値は、-èi 型語尾 43、-ia 型語尾 19、-ra 型語尾 2 であって、圧倒的に -èi 型語尾が優勢である。-ra 型語尾は用例数が僅少なのでここでは別扱いとし、-èi 型語尾と

第3表

動詞	-èi型	-ia型	-ra型	動詞	-èi型	-ia型	-ra型
◎ardire	○			morire		○	
◎assentire	○			parere	○	○	
attendere	○			◎parlare	○		
avere	○	○		potere	○	○	
◎biasmare	○			◎pregare	○		
◎cangiare	○			premere	○		
◎cantare	○			produrre	○		
◎cominciare	○			rimanere	○		
concedere	○			salire		○	
conoscere	○			sapere	○		
convenire	○	○		satisfare			○
correre	○			◎seguire		○	
◎credere	○			◎sentire	○		
dare	○			stare	○	○	
dire	○	○		◎temere	○		
◎disegnare	○			togliere		○	
divenire	○			trarre	○	○	
dovere	○	○		◎trovare		○	
essere	○	○	○	◎usare	○		
fare	○	○		uscire	○		
◎fuggire		○		◎varcare	○		
giugnere		○		vedere	○		
◎guardare	○			venire	○	○	
◎lasciare	○			volere	○	○	
leggere	○						
◎lodare	○			合計	43	19	2
◎misurare	○			(弱変化動詞)	(18)	(3)	(0)

-ia型語尾の両者のみを比較してみよう。強変化動詞・弱変化動詞の両方を含む全体では、
 -èi型語尾対-ia型語尾は43対19(=約2対1)、強変化動詞だけで比べれば-èi型語尾対-ia

型語尾は25対16(=約3対2)、弱変化動詞だけで比べれば-èi型語尾対-ia型語尾は18対3(=6対1)となっている。強変化動詞での-èi型語尾の優位もさることながら、弱変化動詞の語尾として、-èi型が-ia型の6倍も使用されているという事実は、後に現代イタリア語の語尾として定着する-èi型が、『神曲』の中に着実に根付いていることを物語るものとして注目に値する。

(4)意味・用法について

次に、-èi型・-ia型・-ra型の三種の語尾によって、条件法の意味・用法に差異が見られるのか？否か？について調べてみよう。既に第3表で見たように、個々の動詞によってそれらがとる語尾の型がまちまちなので、すべての動詞を一括して検討するよりも、同じ一つの動詞が三種の型の語尾を共有している場合について細かい分析を試みるのが最適であろうと思われる。この条件に叶う動詞はessereのみである。

①助動詞・本動詞

第4表

まず、essereが助動詞として用いられているか？本動詞として用いられているか？によって語尾に差が見られるか否かを調べたのが第4表である。第4表によれば、-èi型では助動詞の用例数が16、本動詞の用例数が27であった、などのことが分かる。この表からは「特定の語尾の型では、助動詞の用法しか存在しない」といったような特別の傾向は認められず、従って、三種の語尾間に用法の差異はないものと思われる。

語尾	-èi型	-ia型	-ra型
助動詞	16	6	6
本動詞	27	13	14
計	43	19	20

②文の種類

第5表

次に、文の種類が異なれば、そこに現われる条件法の語尾も異なりはしないか？という点について検討してみよう。そこで、主節の述語としての機能をもつessereが、如何なる文において用いられているか？について調べたのが次の第5表である。この表によれば、-èi型では平叙文の用例数が40、疑問文の用例数が3、感嘆文の用例数が0であった、などのことが分かる。合計の数値は第4表のそれと同じである。結果的に見て、平叙文が多いのは当然のことであって、三種の語尾の型による用法の差異はなさそうに思われる。

語尾	-èi型	-ia型	-ra型
平叙文	40	19	18
疑問文	3	0	1
感嘆文	0	0	1
計	43	19	20

③条件節・帰結節の構造

第6表

語尾	-èi型	-ia型	-ra型
直説法	0	0	0
接続法	21	6	11
計	21	6	11

「もし～ならば、～であろうに」というのが基本的な条件文である。「もし～ならば」に該当する部分が「条件節」、「～であろうに」に該当する部分が「帰結節」である。現代イタリア語では、この条件文の条件節に接続法を、帰結節に条件法を用いるのが原則である。

さて、長神悟氏は「(13世紀のシチリア派の詩人) Cielo d'Alcamoの作品で目をひくのは、条件が直説法現在形によって示され、帰結節に ra型条件法が用いられる構文の多い点である」ということを指摘しておられる。¹⁾ そこで、『神曲』においてもこの構文の名残りがあるのかどうかについて検討してみたのが、上の第6表である。

筆者の調査によれば、条件文の帰結節に、複合形をも含めてessereの条件法が用いられていた場合が42例存在した。このうち、条件節が省略されている場合が3例、条件節の動詞が省略されている場合が1例存在した。この4例を除いた38例の条件節では、すべて接続法が用いられていた。従って、Cielo d'Alcamoの作品に見られるような条件文の構造は、『神曲』ではもはや消失しているように思われる。

以上、三種の型の語尾による意味・用法の差異について、三項目に亘って検討したが、いずれも否定的な結果に終わってしまった。なお、条件法の意味・用法については、語調緩和・推量・過去未来といったものも存在し、さらなる細かい追究も必要かもしれないが、語尾による意味・用法の差異の抽出は期待薄であろうと筆者は予測する。

§ 5 結果

ここで、本稿で明らかになった主要事項を列記しておこう。

- ①用例総数としては、-èi型は-ia型の約2倍、-ra型は-ia型の約3分の1である。
- ②-ia型・-ra型はその用いられる人称に偏りがある。
- ③弱変化動詞だけの使用頻度(異なり語数のもの)を、三つの型の語尾間で比べてみると、-èi型対-ia型対-ra型は6対1対0で、-èi型が他を圧倒している。
- ④三つの型の語尾間で、条件法の意味・用法の差異は認められなかった。

§ 6 まとめ

Rohlf's, G.の指摘どおり、『神曲』では -èi型の方が-ia型よりも数が多い。その比率は約2倍である。-èi型は既に弱変化動詞を-ia型の6倍も取り込み、全体的には現代語への着実な歩みを示している。ただ、若干の強変化動詞の3人称では競合も見られる。例えば

avereではavrebbeとavriaの2種が、essereではsarebbeとsariaとfôraの3種が競合している。なお、これらの語形がいずれも脚韻部にしか現れないものではないことが、その競合の根強さ²⁾を明確に示している。

注

- 1)長神悟「条件法をめぐる」(『イタリア学会誌』第30号、1981、p.81)
- 2)Migliorini, B. (Storia della lingua italiana『イタリア語史』, 1961, Firenze, p. 707)によれば、-ia型語尾の条件法は、イタリアが統一される1861年から第1次世界大戦にイタリアが参加する1915年にかけて、やっとその使用が韻文でもまれになったとされている。一方-ra型語尾の条件法であるが、Sensini, M. (La grammatica della lingua italiana『イタリア語文法』, 1988, Milano, p. 174)によれば、Novecento(20世紀)以前の文学テキストにおいて、主として、韻文において、それがまだ使用されていることが指摘されている。

付記

筆者は、日本ロマンス語学会第31回大会(平成5年5月22日、学習院大学にて開催)において、統一テーマ『ロマンス語の条件法』のイタリア語担当者として、表題と同名の口頭発表を行なった。本稿はその際の原稿に加筆・修正を施したものである。